

## 付属資料編

1. 枚方市都市計画審議会審議経過
2. 市民意見等の反映

## 1. 枚方市都市計画審議会審議経過

	開催日	主な報告、審議内容	
平成 26 年度 第 2 回	平成 26 年 12 月 17 日	報告	都市計画マスタープランの改定及び立地適正化計画の作成について
平成 27 年度 第 1 回	平成 27 年 7 月 24 日	報告	都市計画マスタープランの改定及び立地適正化計画の作成について
平成 27 年度 第 3 回	平成 28 年 1 月 21 日	報告	都市計画マスタープランの改定及び立地適正化計画の作成について ・基礎調査結果（概要） ・事業者アンケート調査結果（概要） ・枚方市都市計画マスタープラン 素案の方向性について
平成 28 年度 第 1 回	平成 28 年 7 月 27 日	報告	枚方市都市計画マスタープランの改定及び枚方市立地適正化計画の作成について ・枚方市都市計画マスタープラン全体構想【骨子】
平成 28 年度 第 2 回	平成 28 年 10 月 20 日	報告	枚方市都市計画マスタープランの改定及び枚方市立地適正化計画の作成について ・枚方市都市計画マスタープラン【骨子】
平成 28 年度 第 3 回	平成 28 年 11 月 17 日	報告	枚方市都市計画マスタープランの改定及び枚方市立地適正化計画の作成について ・第 2 回枚方市都市計画審議会における意見・質疑等に対する対応等について ・枚方市都市計画マスタープラン【骨子】
平成 28 年度 第 4 回	平成 29 年 2 月 23 日	諮問	枚方市都市計画マスタープランの改定について
令和 3 年度 第 1 回	令和 3 年 11 月 9 日	報告	・枚方市都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の中間検証について ・枚方市都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の改定について
令和 3 年度 第 2 回	令和 4 年 2 月 8 日	諮問	・枚方市都市計画マスタープランの改定について ・枚方市立地適正化計画の変更について

## 平成 26 年度 枚方市都市計画審議会委員名簿

区分	所 属	氏 名	分 野
学識経験のある者	大阪工業大学 工学部 教授	◎ 吉川 眞	都市計画
	摂南大学 理工学部 准教授	○ 加嶋 章博	都市計画
	大阪大学大学院 工学研究科 助教	猪井 博登	土木工学
	京都産業大学 法学部 教授	太田 照美	法律
	関西大学 環境都市工学部 准教授	岡 絵理子	建築環境
	枚方市農業委員会 会長	高橋 利坦	農業
	北大阪商工会議所 専務理事	田中 隆夫	商工
	北河内農業協同組合 理事	山條 敏和	農業
市議会議員	日本共産党議員団	広瀬 ひとみ	
	未来に責任・みんなの会	木村 亮太	
	改革市民会議	鍛冶谷 知宏	
	公明党議員団	大森 由紀子	
	自由民主党議員団	千葉 清司	
	民主クラブ	三島 孝之	
	民主市民議員団	八尾 善之	
市民		岡崎 成子	福祉の観点
		岡山 智久子	子育ての観点

◎: 会長 ○: 会長代理

## 平成 27 年度 枚方市都市計画審議会委員名簿

区分	所 属	氏 名	分 野
学識経験のある者	大阪工業大学 工学部 教授	◎ 吉川 眞	都市計画
	摂南大学 理工学部 教授	○ 加嶋 章博	都市計画
	大阪大学大学院 工学研究科 助教	猪井 博登	土木工学
	京都産業大学 法学部 教授	太田 照美	法律
	関西大学 環境都市工学部 准教授	岡 絵理子	建築環境
	枚方市農業委員会 会長	高橋 利坦	農業
	北大阪商工会議所 専務理事	田中 隆夫	商工
	北河内農業協同組合 理事	山條 敏和	農業
市議会議員	自由民主党議員団	高野 寿陞	
	日本共産党議員団	広瀬 ひとみ	
	未来に責任・大阪維新の会	妹尾 正信	
	連合市民の会	大橋 智洋	
	公明党議員団	上野 尚子	
	民主市民議員団	西田 政充	
市民		岡崎 成子	福祉の観点
		岡山 智久子	子育ての観点

◎: 会長 ○: 会長代理

## 平成28年度 枚方市都市計画審議会委員名簿

区分	所 属	氏 名	分 野
学識経験のある者	大阪工業大学 工学部 教授	◎ 吉川 眞	都市計画
	摂南大学 理工学部 教授	○ 加嶋 章博	都市計画
	大阪大学大学院 工学研究科 助教	猪井 博登	土木工学
	京都産業大学 法学部 教授	太田 照美	法律
	関西大学 環境都市工学部 教授	岡 絵理子	建築環境
	枚方市農業委員会 会長	高橋 利坦	農業
	北大阪商工会議所 専務理事	田中 隆夫	商工
	北河内農業協同組合 理事	山條 敏和	農業
市議会議員	日本共産党議員団	広瀬 ひとみ	
	未来に責任・大阪維新の会	妹尾 正信	
	連合市民の会	中武 貞勝	
	自由民主党議員団	千葉 清司	
	公明党議員団	岡林 薫	
	民進市民議員団	堀井 勝	
市民		岡崎 成子	福祉の観点
		三上 美知恵	子育ての観点

◎:会長 ○:会長代理

## 令和3年度 枚方市都市計画審議会委員名簿

区分	所 属	氏 名	分 野
学識経験のある者	摂南大学 理工学部 教授	◎ 加嶋 章博	都市計画
	関西大学 環境都市工学部 教授	○ 岡 絵理子	建築環境
	摂南大学 理工学部 教授	熊谷 樹一郎	土木工学
	京都産業大学 法学部 准教授	若狭 愛子	法律
	大阪府立大学工業高等専門学校 総合工学システム学科 准教授	山野 高志	都市計画
	枚方市農業委員会 会長	上山 芳次	農業
	北大阪商工会議所 総務課長	高田 研一	商工
	北河内農業協同組合 理事	山條 敏和	農業
市議会議員	日本共産党議員団	野口 光男	
	自由・市民の会	加藤 治	
	連合市民の会	奥野 美佳	
	大阪維新の会 枚方市議会議員団	岡市 栄次郎	
	公明党議員団	丹生 真人	
市民		岡崎 成子	福祉の観点
		三上 美知恵	子育ての観点

◎:会長 ○:会長代理

## 2. 市民意見等の反映（改定時）

### (1) パブリックコメントの実施

募集期間：令和3年12月1日から令和3年12月20日まで

実施方法：ホームページの入力フォーム、意見箱、郵送、電子メール

周知方法：広報ひらかた、ホームページ、YouTube（説明動画）

### (2) 募集期間における意見の提出

0件

第1章

第2章

第3章

第4章

付属資料編

## 2. 市民意見等の反映

### (1) 説明会の開催

開催日	場所
平成 28 年 12 月 16 日	メセナひらかた会館
平成 28 年 12 月 17 日	メセナひらかた会館
平成 28 年 12 月 19 日	南部生涯学習市民センター
平成 28 年 12 月 20 日	菅原生涯学習市民センター
平成 28 年 12 月 21 日	楠葉生涯学習市民センター

### (2) 素案の閲覧期間における意見の提出

閲覧期間	意見の提出件数
平成 28 年 12 月 16 日から 平成 29 年 1 月 11 日まで	1 件

### (3) 公聴会

平成 29 年 1 月 21 日の開催を予定していましたが、公述申出が無かったため開催を中止しました。

### (4) 市民・事業者意識調査

#### 1) アンケート調査概要

##### ①調査の目的

本調査は、市民の皆様・事業者の皆様のご意見やご提案を「枚方市都市計画マスタープラン」の改定と「枚方市立地適正化計画」の作成の参考とさせていただくため、「市民アンケート」と「事業者アンケート」の2つのアンケートを実施しました。

##### ②調査方法

#### 【市民アンケート】

調査対象者	市内在住の 20 歳以上の方
調査件数	3,550 件 (母数：289,732 件)
抽出方法	無作為抽出法
調査方法	郵送法
回収状況	有効回収数 1,611 件 回収率 約 45.4%

#### 【事業者アンケート】

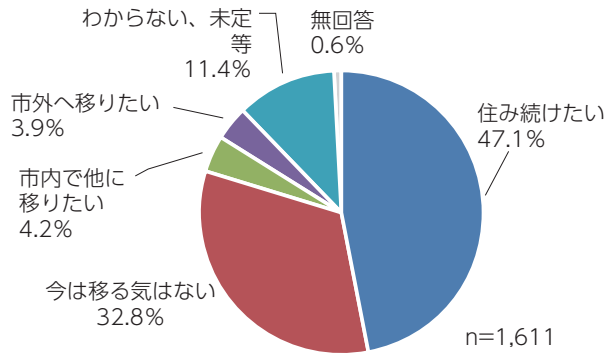
調査対象者	総務省統計局から提供を受けた市内の全事業所
調査件数	1,300 件 (母数：10,962 件)
抽出方法	無作為抽出法
調査方法	郵送法
回収状況	有効回収数 493 件 回収率 約 37.9%

## 2) アンケート調査結果

### ①市民アンケート

#### 【住まいと定住意向】

●本市への定住意向は、「住み続けたい」(約 47.1%)と「今は移る気はない」(約 32.8%)を合わせると約 8 割(約 79.9%)で、定住意向が高い傾向にあります。なお、「市外へ移りたい」は約 3.9%となっています。

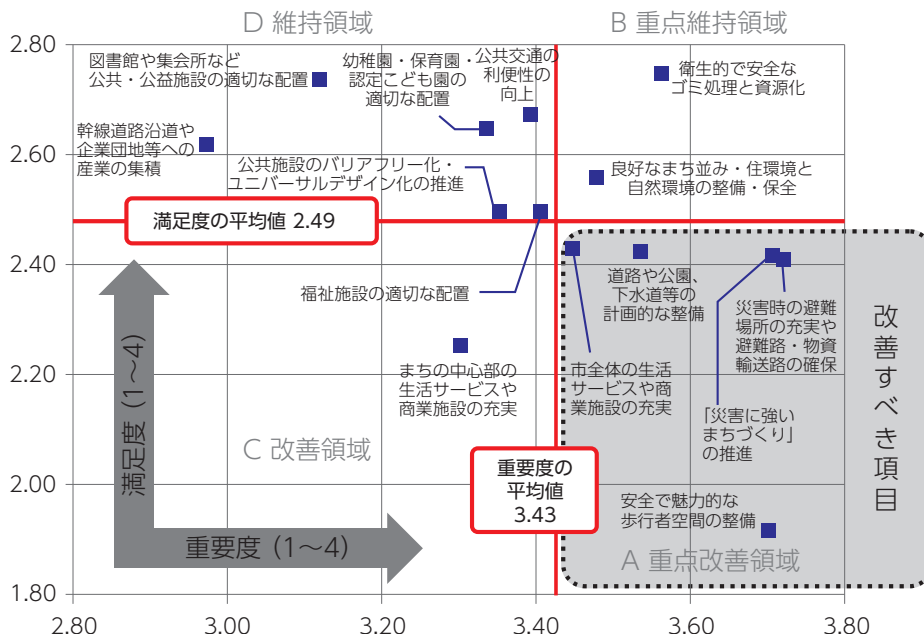


#### 【枚方市の住み心地と今後のまちづくりについて】

##### ●満足度×重要度について (CS ポートフォリオ分析)

本市のまちづくりに関する市民の満足度について、横軸に重要度、縦軸に満足度を取り、まちづくりに関する項目についてそれぞれ 4 点満点で評価しました。

分析の結果、重要度が高いにもかかわらず満足度が低い【A 重点改善領域】には、「安全で魅力的な歩行者空間の整備」、「災害時の避難場所の充実や避難路・物資輸送路の確保」、「『災害に強いまちづくり』の推進」といった安全安心に関わる項目や「道路や公園、下水道等の計画的な整備」、「市全体の生活サービスや商業施設の充実」といった項目が属しており、これらは優先的に改善すべき項目であると考えられます。

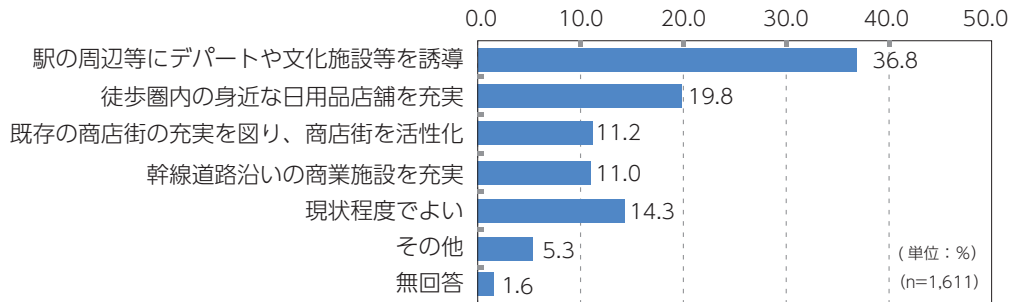


A(重点改善領域)	: 重要度(高) × 満足度(低) ⇒ 優先的に改善すべき項目
B(重点維持領域)	: 重要度(高) × 満足度(高) ⇒ 「継続して維持管理すべき項目」
C(改善領域)	: 重要度(低) × 満足度(低) ⇒ 「必要に応じて改善すべき項目」
D(維持領域)	: 重要度(低) × 満足度(高) ⇒ 「実施の優先度が低い項目」



●これからの枚方市の商業地について

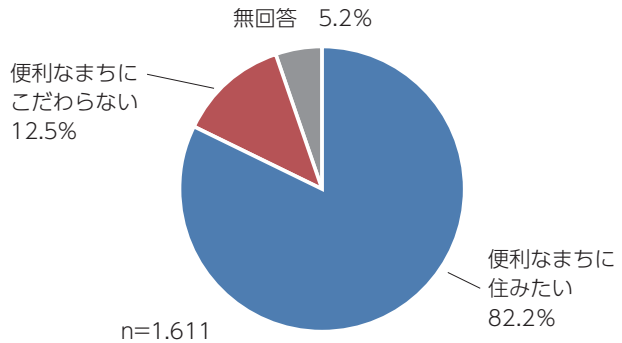
駅の周辺等にデパートや文化施設等を誘導して拠点となる商業地を充実させるとともに、家からそばにある身近な日用品店舗を充実させることが、本市の商業地に求められていると考えられます。



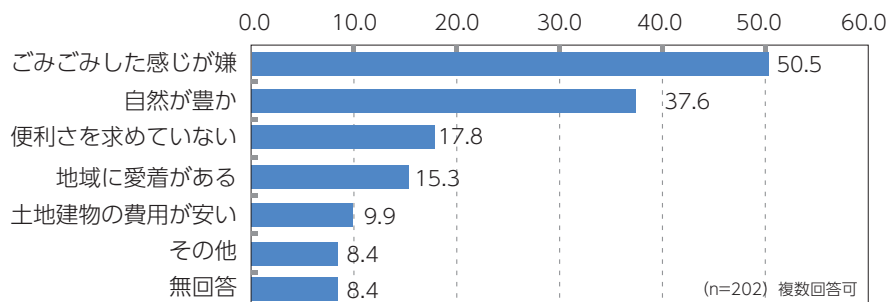
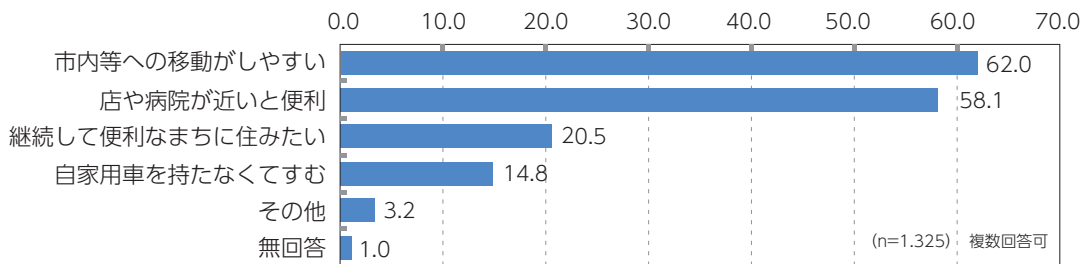
【これから目指していくまちの姿について】

●歩いて暮らせるまちづくりについて

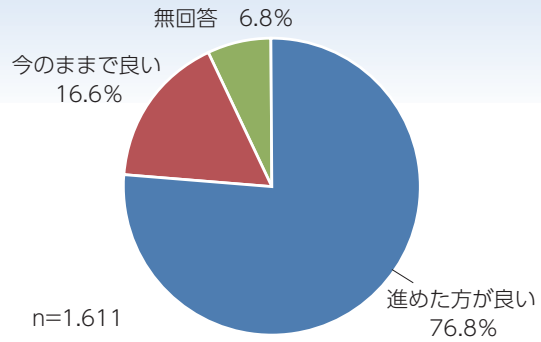
「便利なまちに住みたい」と答えた割合は約 82.2%、対して「便利なまちにこだわらない」は約 12.5% であり、多くの方が便利なまちでの居住を望まれている傾向にあります。



「便利なまちに住みたい」理由については、「駅やバス停が近いと枚方市内や都心部（大阪市内等）への移動がしやすいから」が約 62.0% と最も多く、次いで「お店や病院等が近くにあると便利だから」が約 58.1% となりました。一方、「便利なまちに住むことにはこだわらない」理由については、「ごみごみした感じが嫌だから」と回答が約 50.5% と最も多く、次いで「自然が豊かな場所が多いから」が約 37.6% となりました。

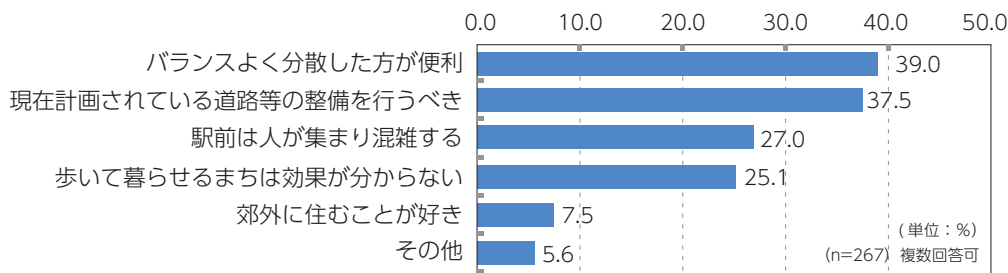
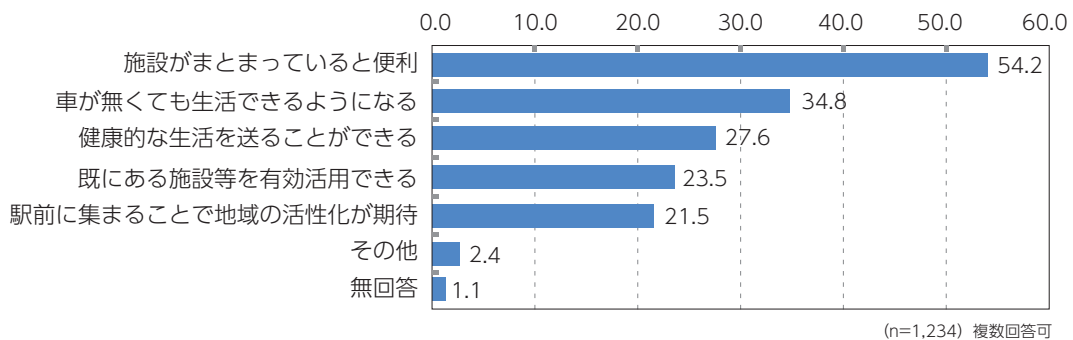


●「歩いて暮らせるまちづくり」の施策について  
 施策について、「進めた方が良い」（約76.6%）  
 が「今のままで良い」（約16.6%）を大きく上  
 回り、多くの方が歩いて暮らせるまちづくりの  
 取組みについて施策を進めることを望まれている  
 ことが分かりました。

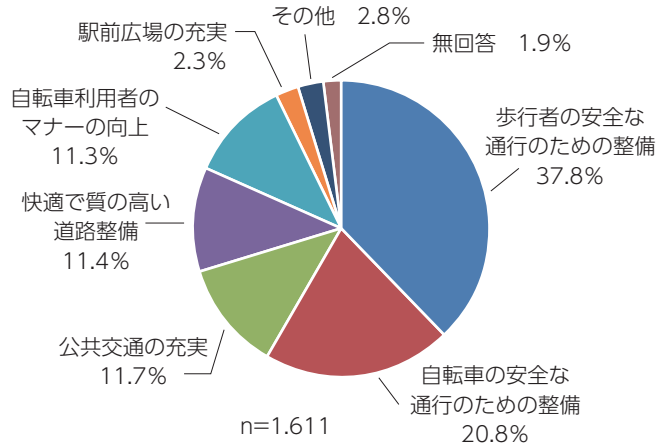


「歩いて暮らせるまちづくり」を進めた方が良い理由としては、「施設がまとまっていると、一度に用事を済ませることができて便利だから」が約54.2%と最も多く、次いで「車がなくても生活できるようになるから」が約34.8%となりました。

一方、今のままで良い（進めなくてよい）理由としては、「便利な場所に施設がまとまっているよりも、バランスよく分散していた方が便利だから」が約39.0%と最も多く、次いで「現在計画されている道路の整備や歩道の整備等を行うべきだから」が約37.5%となりました。



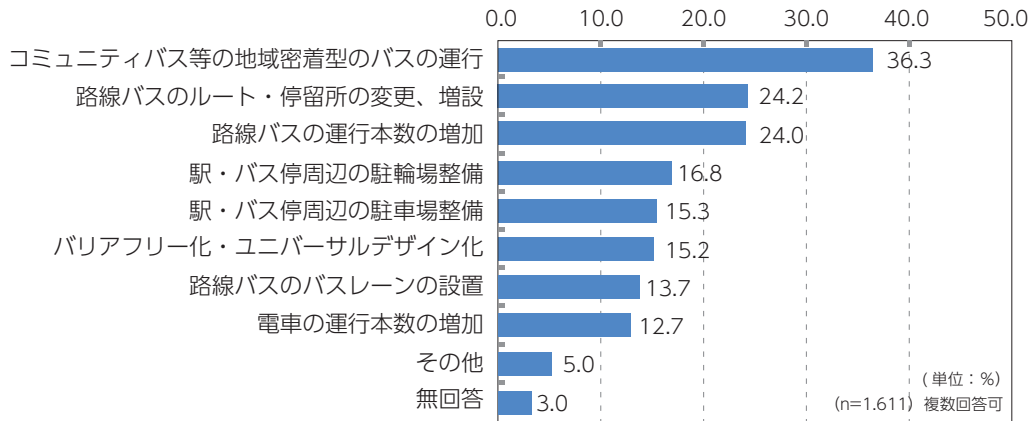
「歩いて暮らせるまちづくり」を実現するための必要な取組みとしては、「歩行者の安全な通行のための整備（歩道の設置、段差の解消等）」が約 37.8% と最も多く、次いで「自転車の安全な通行のための整備（自転車レーンの設置等）」が約 20.8% となりました。一方、「駅前広場の充実」は約 2.3% で最も少なく、歩行者や自転車空間の確保に比べて低い傾向となりました。



●公共交通（電車・バス等）の充実について

「電車やバス等の公共交通を充実させること」について、「理解できる」と「やや理解できる」を合計すると約 84.3% となり、多くの方から「歩いて暮らせるまちづくり」の取組みについて理解されていると考えられます。

さらに、公共交通を充実させ、利便性を高めるために必要な取組みは、「コミュニティバス等の地域密着型のバスの運行」が最も多く（約 36.3%）、次いで「路線バスのルート・停留所の変更、増設」（約 24.2%）となっていました。



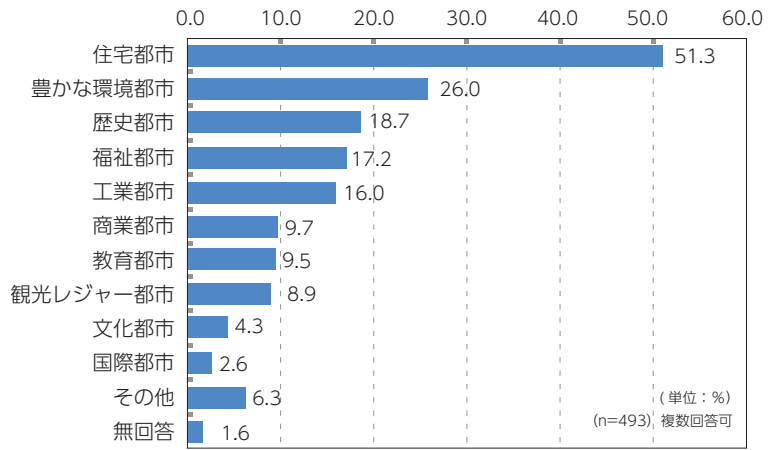
②事業者アンケート

【事業所の環境等について】

●枚方市のイメージについて

事業者が持つ本市のイメージは「大阪都市圏の住宅都市」が最も多く(約51.3%)、次いで「淀川や丘陵地に見られる豊かな環境都市」(約26.0%)が多く見られました。

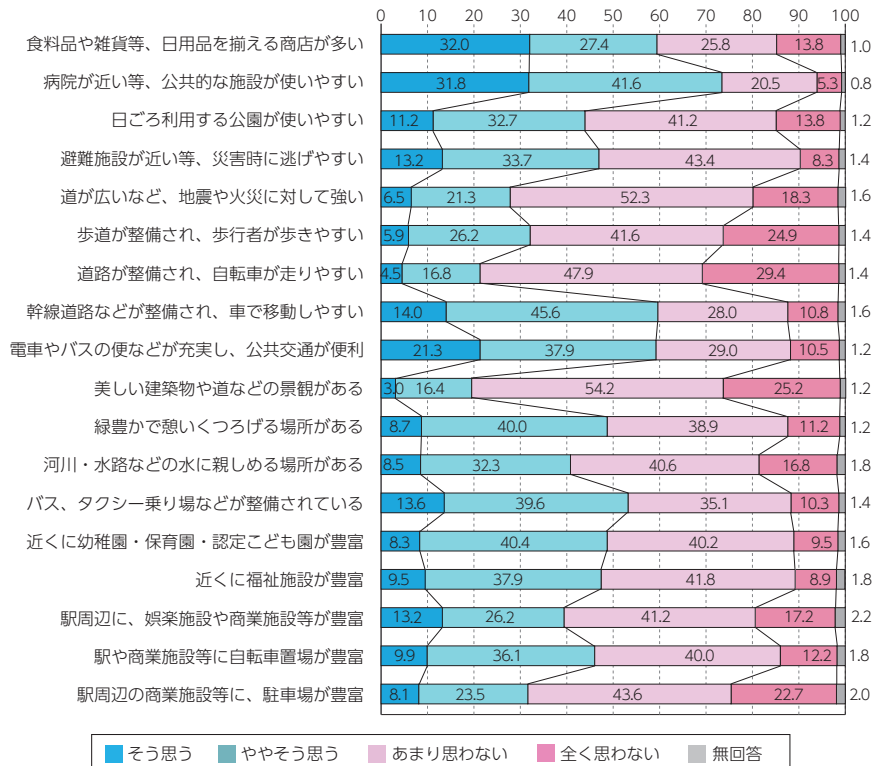
一方で、「国際都市」や「文化都市」というイメージは少ないものとなりました(それぞれ約2.6%、約4.3%)。



●事業所周辺の環境について

事業所周辺の良好な環境としては、主に「病院等、公共施設が使いやすい」、「日用品をそろえる商店が多い」、「幹線道路が整備され車で移動しやすい」、「公共交通が便利」、「バス乗り場等が整備されている」等の項目が挙げられています。

一方で、環境が整っていないと捉えられている項目は「美しい建築物等の景観がある」、「自転車が走りやすい」、「地震や災害に強い」、「駅周辺の商業施設等に駐車場が豊富」、「歩道等が歩きやすい」、「駅周辺の商業施設等が豊富」、「公園が使いやすい」、「災害時に逃げやすい」、「緑豊かでくつろげる場所がある」、「近くに社会福祉施設がある」等の項目が挙げられています。



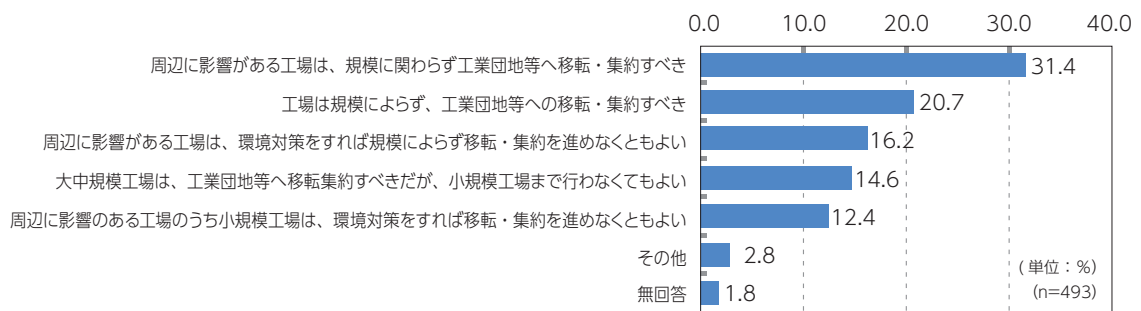
【商工業施設の立地について】

●工場の立地について

今後の市内への工場の立地については、「周辺に影響がある工場は、工業団地等へ移転を進めるべき」(約 31.4%)と「工場は、規模にかかわらず、工業団地等への移転・集約を進めるべき」(約 20.7%)を合計すると、約 5 割 (約 52.1%) の事業者が、工場の工業団地等への移転・集約を進めるべきと考える傾向にあります。

ただし、周辺に影響がある工場についても、環境対策を講じるのであれば、工業団地等へ移転を進めなくともよいという意見が約 3 割 (※) ありました。(※「規模にかかわらず (約 16.2%)」及び「小規模工場に限って (約 12.4%)」の合計)

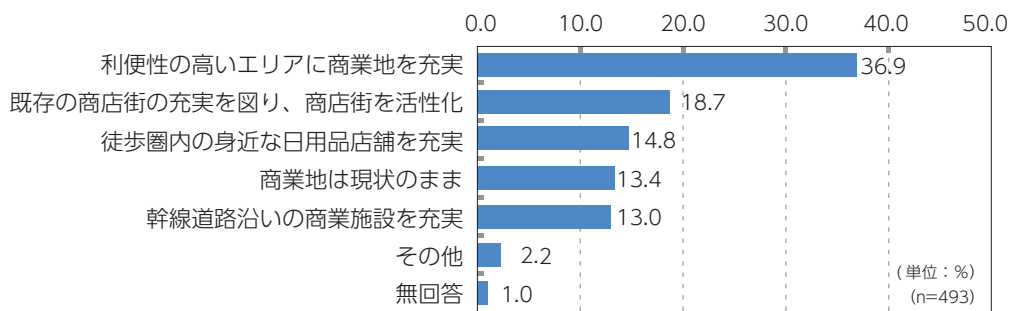
全体的に見ると、工場は工業団地等に立地することが望ましいものの、影響の少ない工場や、環境対策を講じた場合については工業団地等に移転しなくともよいと考えられている傾向にあります。



●商業施設の立地について

今後の市内の商業施設の立地については、「駅の周辺等利便性の高いエリアに拠点となる商業施設を充実させる」との回答が最も多く見られました (約 36.9%)。

既存商店街やロードサイド型の商業施設について「幹線道路沿いの商業施設を充実」の意見は少なく (約 13.0%)、交通利便性の高いエリアの商業地を充実させることが望ましいと考えられている傾向にありました。



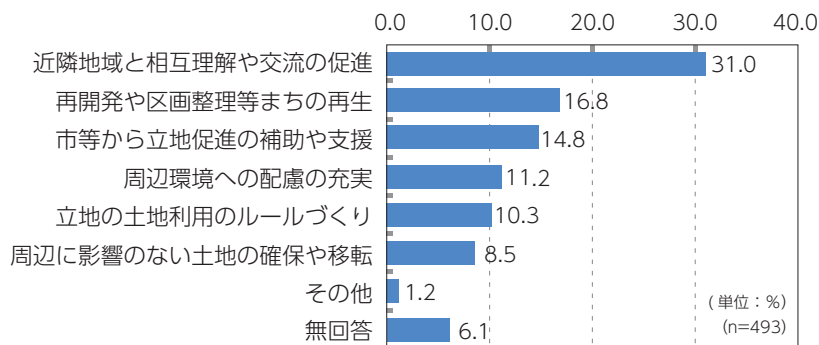
## 【今後のまちづくりについて】

### ●地域との共存を図るために必要なこと

地域との共存のためには、「事業所と近隣地域との相互理解や交流の促進」が必要という回答が最も多く見られました（約 31.0%）。

この回答を行った事業者を業種別にみると、回答数が多かったのはサービス業をはじめ卸小売業、金融保険、医療、社会保険福祉業等となりました。

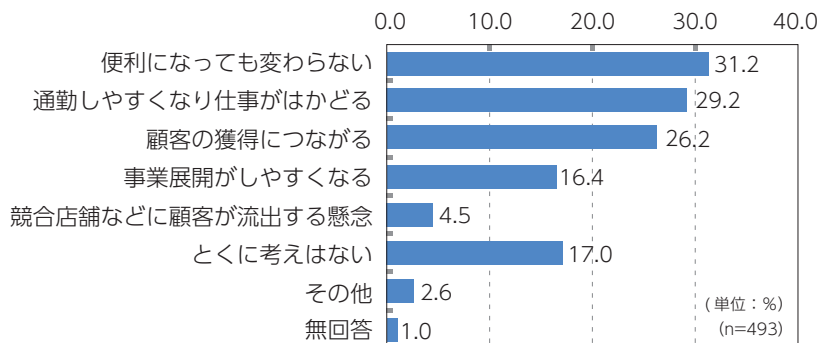
また、「事業所が立地しても周辺に影響のない土地の確保や工業地などへの移転集約」については運輸通信業が、「土地利用のルールづくり」については農林水産業が、それぞれの設問に対する回答数が多い業種となりました。



## 【これから目指していくまちの姿について】

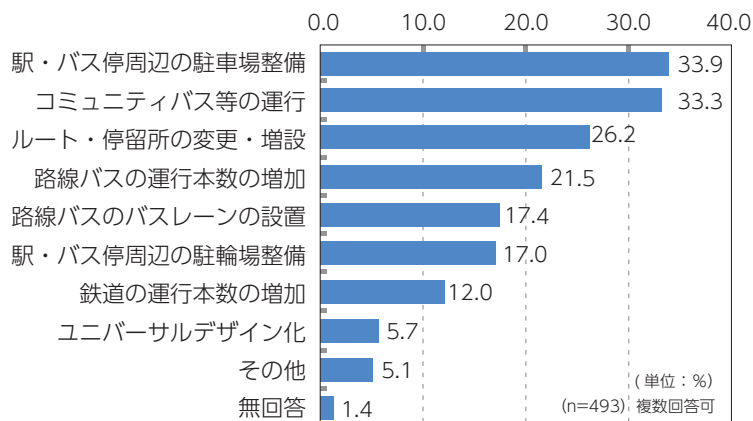
### ●公共交通の利便性の向上について

公共交通の利便性が向上すれば「社員（店員）が通勤しやすくなり仕事がかどる」（約 29.2%）、「顧客の獲得につながる」（約 26.2%）等の肯定的な意見が多く見られましたが、「公共交通が便利になっても車は減らないと思うので、これまでと変わらない」という意見も同数程度ありました（約 31.2%）。また、公共交通の利便性の向上により「競合店舗などに顧客が流出する懸念がある」という否定的な意見は少なくなっています（約 4.5%）。



●公共交通の利便性を高めるための取組み

「駅・バス停周辺の駐車場の整備」(約 33.9%) によるパークアンドライドの推進をはじめ、「コミュニティバスの運行」(約 33.3%) やバス路線のルート変更、便数増加等の取組みにより、公共交通の利便性が高まると考えている回答が多く見られました。

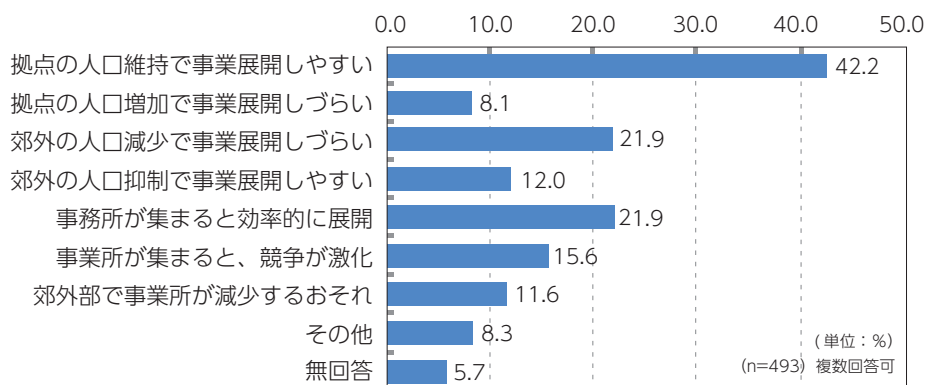


●「集約型都市構造」の形成に対する考え方について

集約型都市構造の形成により、「まちの拠点で人口が維持されると事業を展開しやすい」(約 42.2%)、「まちの拠点に事業所が集まると効率的に事業を展開しやすくなる」(約 21.9%) など、メリットを感じている事業者が多い結果となりました。

一方で、デメリットとして「郊外部で人口が減少するおそれがあり、事業を展開しづらくなる」(約 21.9%)、「まちの拠点の人口が増えすぎると事業を展開しづらくなる」(約 8.1%) という意見もありました。

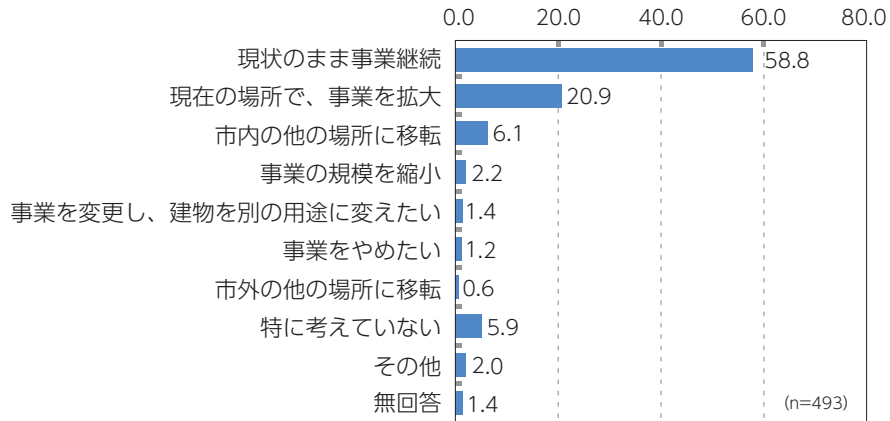
業種別にみると、「郊外の人口減少で事業展開がしづらい」という意見は、娯楽業や社会福祉業などの業種で多く見られました。



## 【今後の事業展開について】

### ●現在地での今後の事業展開について

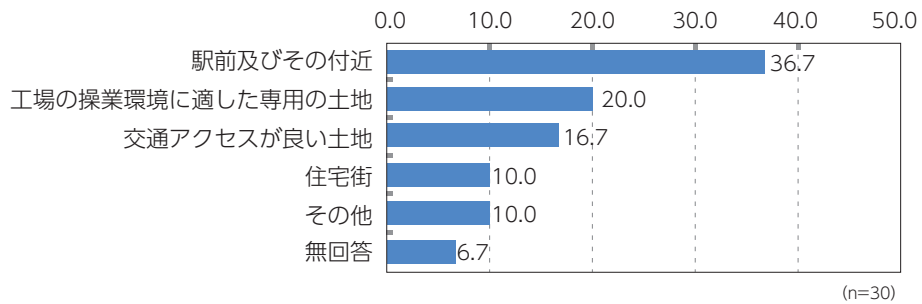
「現状のまま事業を続けたい」が約 58.8%と最も多く、次いで「現在の場所で、事業を拡大したい」が約 20.9%となりました。



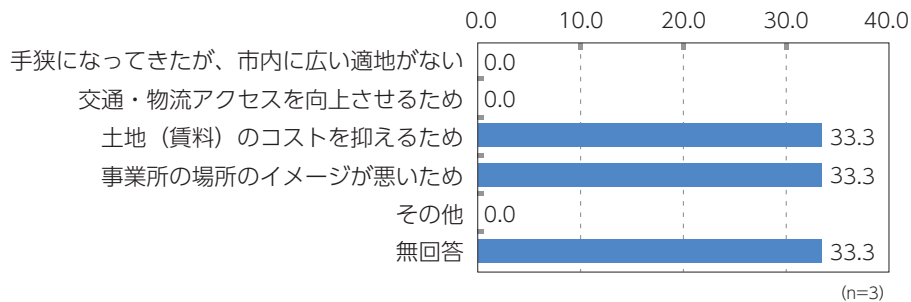
「市内の他の場所に移転したい」(約 6.1%) を選んだ理由については、移転先に求める環境としては「駅前及びその付近」が約 36.7%と最も多く、次いで「工場の操業環境に適した専用の土地 (工業団地など)」が約 20.0%となりました。

「市外の他の場所に移転したい」(約 0.6%) を選んだ理由については、移転先に求める環境として、「土地 (賃料) の価格が高く、コストを抑えるために安価な土地に移転したい」、「事業所の場所のイメージが悪く、顧客の評判を向上させるため」という回答もありました。

### 【移転先 (市内の他の場所)】



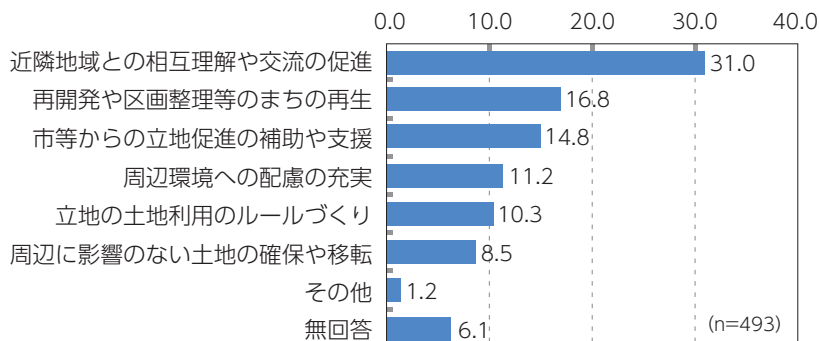
### 【移転先 (市外の他の場所)】





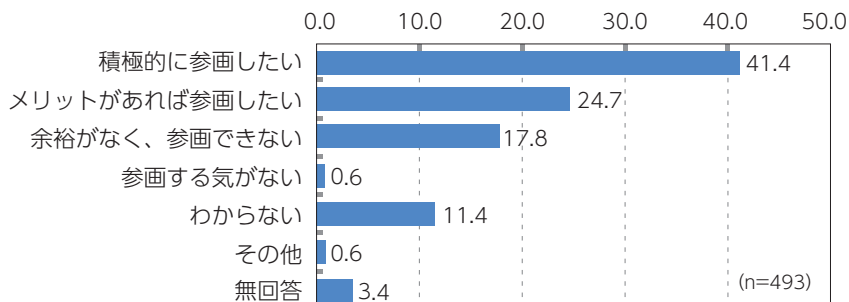
●地域との共存を図るために必要なことについて

「事業所と近隣地域との相互理解や交流の促進」が約 31.0%と最も多く、次いで「再開発や区画整理などによるまちの再生」が約 16.8%となりました。



●事業所と地域の協働によるまちづくりへの取り組みや、まちづくりへの参画について

「地域との共存や貢献は大切なので積極的に参画したい」が約 41.4%と最も多い結果となりました。



---

発行年月 令和4年3月  
発行 枚方市  
〒573-8666  
大阪府枚方市大垣内町2丁目1番20号  
TEL. 072-841-1221 (代表)  
E-mail [tosikeikaku@city.hirakata.osaka.jp](mailto:tosikeikaku@city.hirakata.osaka.jp)  
編集 都市整備部都市計画課

---